

府中かんきょう市民の会

NPO法人 府中かんきょう市民の会会報
 2017年 新年号 1月11日発行 通巻63号
 発行人 梅沢 みどり (府中市紅葉丘)
 TEL 042-351-0689
 編集人 葛西 利武

田んぼの学校 2016
 米づくり体験

収穫祭 修了式 私たちで作ったお米のオニギリは美味しい!

「田んぼの学校」(府中市委託事業)の収穫祭・修了式が11月6日(日)の9:30~13:30まで中央文化センターで開催。129名の参加者が心をあわせた楽しい収穫祭となりました。

○生徒38名	保護者47名	計85名
○来賓・ボランティア・スタッフ		計44名
府中市長	環境政策課長・主任	3名
国立大学法人	東京農工大学	11名
都立府中東高校	生物部	9名
田んぼの学校ボランティア		3名
府中かんきょう市民の会		17名
JCOM		1名
		総計129名

みんなで力をあわせて「大豊作」

今年で11回目の開催となった田んぼの学校は、5月の開校式・田植え、7月の草取り・生き物さがし、9月の稲刈り・ハサかけ、10月の脱穀・モミすりそして今回の収穫祭・修了式の計5回の開催。

今年は8月下旬から9月は晴れ間が少なく日照不足で米のできが心配されましたが、何と110kgの米が収量できました。ちなみに、去年は102kgです。これは皆さんと行なった数回の草取り、防鳥ネットを張った等によるものと思います。

手づくり収穫祭は楽しいね

収穫祭・修了式は朝9時30分より受付開始。準備は豚汁づくり、おにぎりづくり、会場設営・花飾りの3グループに分かれ進めました。



おんさんお母さんが豚汁づくり

豚汁づくりは12人のスタッフで、今回は4人のお父さんが参加され会話も弾み和やかな雰囲気でした。おにぎり作りは保護者7人に農工大生2人が加わり、生徒は3グループに分かれ順次おにぎり会場に入り、1人10個のおにぎりを作り次のグループに交代。



東高校生によるバルーンアートづくり

手のあいた子供たちは東高校生のバルーンアート、折り紙、ちょう飛行機で遊び、バルーンアートではツルギ・犬・オーム等を作り、男の子はそのツルギを持って走り回り、女の子は折り紙作りで綺麗なコマづくりをしました。

写真入りの修了書もらい、高野市長と農工大 大川先生からも祝辞



来賓/右から前島環境政策課課長、農工大の大川先生、高野市長

11時30分から収穫祭・修了式が開会。主催者のかんきょう市民の会梅沢理事長の挨拶、府中市の高野市長、農工大の大川先生からご祝辞がありました。祝辞の後おにぎりとお肉汁を配膳

し農工大生の武田さんの元気な音頭で食事の始まりが告げられると、子供たちからワァーという大きな歓声。自分たちで作ったお米でのおにぎり、あちこちで美味しいとの声がありました。



食後 第1回田植えから第4回脱穀・モミすりを録画したビデオを放映し、生徒・保護者が熱心に見入っていました。田んぼクイズ正解発表

美味しいおにぎりとお肉汁に舌鼓を打つ食事会とバケツ稲観察講評があり、さらに子供・保護者との感想交流では、6組の方に感想文を読んでもらいました。

米づくりはほとんどの人が初体験で、子供たちは田植え・稲刈り・自然観察等楽しくやれたとの声が多く、親は子供といろいろの事が体験でき、学ぶことが多かったとの話です。



梅沢理事長から修了書が授与

梅沢理事長から写真入りの修了書が授与された後、前島環境政策課長から講評があり多くの思い出を残し終了。今年も農工大(耕地の会)、府中東高校(生物部)の若い多数の人の協力を頂き有難うございました。(五十嵐四郎)

田んぼの学校 米づくり体験／2016

雨の中でも 脱穀作業に夢中!

10月9日(土)、第4回の「田んぼの学校」が、分倍河原駅そばの「東京農工大学 本町実験農場」で開かれました。当日は朝から雨が懸念され、とくに開始時間の9時前後には降り方も強まっていました。それでも参加者は前回並みの32名を数えました。

人気一番 稲束脱穀

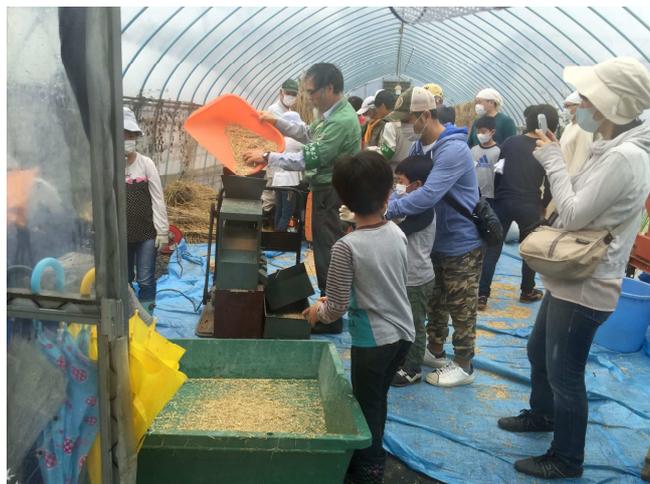
今回の作業は、脱穀・籾摺りです。ただ雨天のため、機械を使った脱穀・籾摺りと手作業とを、それぞれ別のビニールハウスで行うことになり、それに併せて、参加者も2班に分けられました。



脱穀・籾摺り用の機械は、用途に応じて3つ用意されていました。作業は、

- ①はさ掛けされていた稲束からの脱穀 (写真①)
- ②籾摺り
- ③「唐箕(とうみ)」と呼ばれる機械を使って、重い米粒(来年の田植え用にする)と今年食べる軽い米粒とに風力で選別の順に行われます(写真②)。

このなかで参加者の一番人気だったのが、稲束の脱穀です。稲の束を操る作業が面白いらしく、なかなか希望者の列が途切れませんでした。



慣れぬ手作業 楽しかったりつらかったり

手作業のメニューは、牛乳パックと箸を使っての脱穀、ゴルフボールまたはすりこぎ棒を用いた籾摺り、そして戦時中の家庭で見られた、びん搗(つき)き精米などです。

このうち、びん搗き精米にチャレンジした男の子は、「腕の力があるから、疲れない」と、頼もしいこたえ。腕を動かすのに、「えいや! えいや!」と声を発していて、さすがお祭りのまちの府中っ子、といった風情です(写真③)。

一方、すり鉢にすりこぎで籾摺りをしている子からは、びん搗きより「力を使う」との感想も(写真④)。また、「簡単」といいながら箸での脱穀をやめない女の子もいて、みんな思い思いに作業にふけていました。



参加者の喜びが なにより

作業の振り返りのコーナーでは、「大変だったけれど頑張れた」「牛乳パック脱穀が楽しかった」など、さまざまな感想が子どもたちから聞かれ、いつもより早い午前11時に、無事終了となりました。

屋外に出られない、そして作業前恒例の「ピョピョ体操」もない「田んぼの学校」となってしまいましたが、参加者が喜んでいたので、何よりです。

もともと、脱穀・籾摺りできなかった稲が多かったので、終了後にはスタッフによる翌日作業となりましたが。

ともあれ、収穫祭では、参加者が大事に育てたお米でおいしいおむすびがたくさん食べられそうです。

(西宮 幸一)

西府崖線(ハケ)周辺の 歴史・自然遺産めぐり

徳川家康の御殿跡、善明寺、高安寺、新田義貞公之像、 八雲神社、西府町湧水などを見学

コース/JR府中本町駅→徳川家康の御殿跡→善明寺→高安寺→新田義貞公之像→高倉塚古墳→八雲神社→本宿町緑地→カッパ池→市川緑道(あずまや)→西府町湧水→御嶽塚古墳→JR西府駅

平成28年11月3日(木)の祝日に、NPO法人府中かんきょう市民の会(以後当会という)では、今回で3回目となる、西府崖線(府中崖線の西端部)沿いを歩き、崖線に残されている自然と市の史跡や神社仏閣を中心に見学会を開催しました。時間は9:00~12:20。

当日は、好天に恵まれ、ウォーキング日和となり、市の広報で募集した参加者7名と会員9名の16名で、集合場所のJR府中本町駅を出発しました。



最初は、駅前の「国司の館跡」と「徳川家康の御殿跡」を見学し(写真④)、続いて同駅の近くにある「善明寺」を訪れました。この日は、「善明寺」では、年に一度、国の重要文化財である「鉄造阿弥陀如来坐像」の公開日であり、ご住職の出迎えを受けて参拝させて頂きました。



善明寺前で全員の記念撮影 ④は鉄造阿弥陀如来坐像(絵葉書から)

次の「高安寺」では、鎌倉時代、源義経が兄の源頼朝の赦免を求めて、大般若経を写経した時に弁慶が墨を磨り、硯を洗うために水を汲んだといわれている「弁慶硯の井戸」を見学しました。



続いて、京王線分倍河原駅前の「新田義貞公之像」前では、義貞が鎌倉幕府を滅ぼした後に、「5年後には京都で晒らし首になった」事などを説明し、悲運な武将であった事や妻の勾当内侍(こうとうないし)との悲恋物語などを披露しました。

⑤高安寺山門

今回の案内役を務めた筆者は、義貞の首塚がある京都の「滝口寺」に事前調査に出向き撮影してきた、義貞の首塚と勾当内侍の供養塔の写真も披露しました。

次に、「高倉塚古墳」を經由して、牛頭天王(ゴズテンノウ)と素戔鳴尊(スサノハミコト)が祀られている分梅町1丁目にある「天王宮八雲神社」と、その近くにあり市の史跡に指定されている「元応の板碑」を見学しました。その後、当会がキツネノカミソリを保護している「本宿町緑地」を經由して、さらに毎月清掃活動をしている「カッパ池」を通り、日新町のNECの北側に連なる「西府崖線」の「あずまや前」で小休止しながら、当会が崖線の保全活動を行っている活動状況をパネル展示して、最近発行の「ハケって、なに?」のカラー図版を配布しました。そして、西府崖線の樹木マップや春夏秋冬の動植物写真をPRしました。



⑥ 新田義貞公之像

⑦ 八雲神社近くの「元応の板碑」

続いて、崖線沿いを用水路に沿って歩きながら、「東京の名湧水57選」に選定されている「西府町湧水」を見学し、当会が12年前から市の委託を受けて、毎月湧水量を測定したり、年2回、夏と冬に水質調査(7項目)を行っている事などを説明しました。



⑧市川緑道のあずまや ⑨西府町湧水

最後は、西府文化センター北側の「御嶽塚古墳」を見学して、無事に予定した全行程を終了する事ができました。

参加者からの感想では、崖線沿いには史跡や自然が豊富に残されており、崖線が身近に感じられたとか、当会が永年にわたり、崖線の保全活動に取り組まれている事に感動したなどの意見が寄せられました。

(竹内 章)

バス見学会 2016 神奈川県立生命の星・地球博物館と小田原魚市場

第16回バス見学会が、府中市の借上げバスを利用して、10月7日(金)に開催されました。時間は8:30~16:00です。天候は薄曇、気温も20~24℃の旅行日和、参加者は39人でした。

今回の見学先は、「神奈川県立生命の星・地球博物館」で、1995年3月開館の博物館です。バスのコースは中央高速道から高尾ジャンクション経由、圏央道、海老名ジャンクション、厚木小田原道です。

近隣の学校からの見学者も多く、私たちが見学した日も、団体予約が約2,000人とのことで、入館者は多い状態でした。博物館では30分のガイダンスを受けた後の見学です。



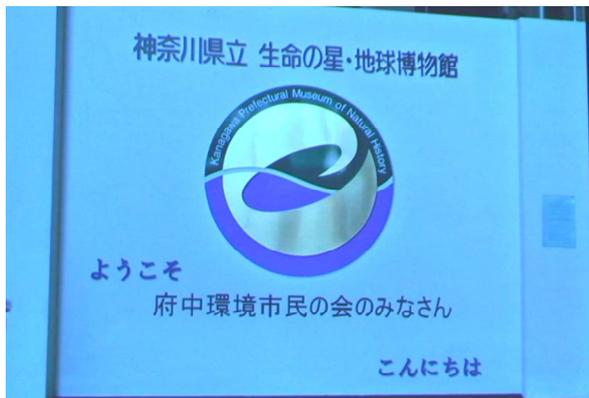
神奈川県立「生命の星・地球博物館」前での記念撮影

見学会に参加した会員の友人の中で、2人の入会申し込みがあったことも、今回のトピックスと言えるでしょう。また、見学会についてのアンケートも初めて実施しました。

全体についての意見としては、「よかった:22人、まあまあよかった14人」(37人中36人が回答)でした。

今回も会費1,000円で実施し、支出は博物館の観覧料(特別展を含む)と、バスの高速料金、事前調査費用でした。

(小西 信生)



「府中かんきょう市民の会」の歓迎表示

館の展示は、「地球を考える」「生命を考える」「神奈川の自然を考える」「自然との共生を考える」の4つの総合展示室に展示されている数ミリの昆虫から大型の恐竜の化石まで、1万点にのぼるといふ実物標本です。特別展「大地からの贈り物」のテーマで、地球の様々な営みとその条件の中でできた鉱物や、鉱物組成の宝石も見学しました。

昼食時間も含め、1時間半程度の見学時間しかとれなかったため、すべてを見ることはできませんでしたが、自然について、地球についての知識を多少なりとも深めました。



小田原の干物店「小田原早川漁村」



恐竜の標本

博物館見学の後、小田原の海岸付近の魚市場で、相模湾の魚の干物などの海産物をお土産に選んだり、食事を楽しんだりしました。

その後は小田原出発時間は14:20、府中帰着は15:57と、予定通りの時間でした。往復のバスの中では、会の活動を紹介するDVDを放映しました。

参加者のY.Hさんの感想

会員である知人に誘われ、神奈川県立生命の星・地球博物館を見学してきました。

30分程展示内容についての説明を受けてから見学しましたが、「地球を考える」「生命を考える」といった大きなテーマに、1時間あまりの見学時間では、展示場を駆け抜ける感じで、もう少し時間をかけて見たいと思いました。それでも地球誕生の過程でできた様々な岩石の実物に触り、その大きさに圧倒され、日常にはない刺激を受けました。

この博物館には2005年の見学会でも来たことがあり、それ以来度々見学会に参加させていただいております。

ビデオや広報紙でかんきょう市民の会が地道に活動を続けていらっしゃることを知り、改めて敬服しております。お世話になりありがとうございました。(Y.H)

秋の清掃活動と
巣箱取外しに参加して

「あずまや」の荷物の番人に徹する！

（株）KSKはNEC府中事業所内にあるIT関連企業です。リーダーの村上武志さんに寄稿していただきました。なお、参加者全員が自主的参加です。（編集部）

朝から清々しい秋晴れのなか、KSKとして昨年の10月15日（土）、三度目の「秋の清掃活動と巣箱取外し」に参加しました。時間は10:00～11:20です。

今回、我々は新たなメンバーを従え、計7名で参加させていただくことになりましたが、私（筆者）は、清掃活動を目前に負傷し当日は戦力外通告を受け、活動自体はあえなく断念。「あずまや」の荷物の番人に徹しました・・・。

さて、普段毎日利用している西府界限ですが、通勤で余



怪我を押し参加した村上さん
その仲間たち。あずまや前にて

裕がないせいかあまり周りの景色等を気にせず、自然を感じていない人が多いのが現状です。初めて参加したメンバーからは「わき水があったり巣箱が設置されていたり、こんなに身近に自然と触れ合うことができるとても有意義だった」という声も聞くことができ、誘ってよかったと感じました。これもひとえに、今回の活動も踏まえ、普段より西府の自然を愛し、継続的な心の活動があつてこそだと改めて感じました。



エノキの大木から巣箱外し

また今回は、昆虫の先生もいらつしやり、清掃活動の間も生物の生態などを観察されているご様子。そんな中、先生を目の前にして、清掃のためとはいえ、蜘蛛の巣を取り除くのもどうかと、少々気が引けてしまいました（笑）

最後となりますが、今後も微力ではございますが我々として出来る限り清掃活動に参加させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

～マジメな未来をかたちにする We are Team KSK～

第2回 府中市民協働まつり 「つながりフェスタ」開催

「府中かんきょう市民の会」参加詳細

- ☆出展日 2016年11月26日（土）
- ☆時間 10:00～16:00
- ☆会場 府中グリーンプラザ 6階／子どものわくわく体験ブース
- ☆出し物 ①紙飛行機の作成 ②紙ちょうちょ
※それぞれ飛ばして遊ぶ



沢山の親子が足を止め、子どもたちが「紙飛行機」を作成して飛ばしていました。また、スタッフ作成の「紙ちょうちょ」は飛ばし方が少し難し

いので、スタッフが飛ばし方のコツを教えていました。さらに、当会のことを皆さんに知っていただくため、会報秋号（通巻62号）、当会の宣伝チラシ、カラー図版「ハケって、なに？」をブース内におきました。

なお、グリーンプラザでの開催は今回が最後となります。



そのため今後は、現在建設中の府中駅南口再開発ビル内の「市民活動センター」での開催となるようです。（取材／葛西利武）

会員のT.Kが自宅から撮影したダイヤモンド富士。金色の縁取り。左は丹沢



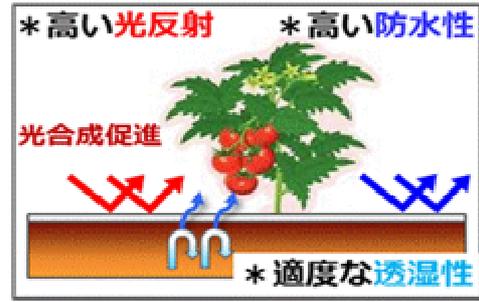
謹賀新年

第6回 農業ワールド2016 レポート

前編

「後編」は春号
(通巻64号)に掲載

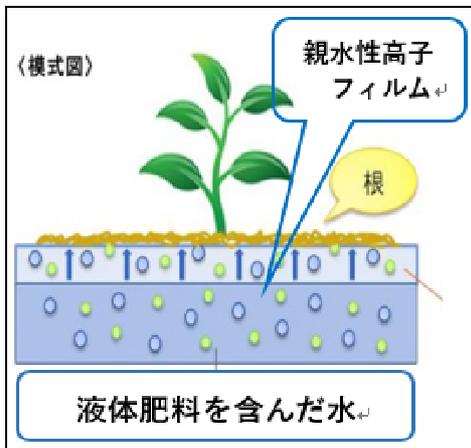
日本最大の「農業ワールド」の構成(6展)は、おもに「農業資材 EXPO」、「次世代農業 EXPO」、「6次産業化 EXPO」の3展からなり、農業に関するあらゆる製品やサービスが集結し、10月12日～14日に開催、過去最多の海外企業含む730社が出展、入場者数は3日間約46000人。主催は、リード エグジビション ジャパン(株)。



1. 栽培用資材 & 栽培方法

1.1 親水性高分子フィルム(※)に吸収された養液を作物がこの

フィルム上で吸上げて栽培される世界初の技術/デンカ
親水性高分子フィルムは、その下部に供給された養液をフィルムの上部へ少しずつ通す。その際に、作物は細かい根を大量に発生させ、微量の養液を求めてフィルムにしっかりと吸着する。その結果、作物が沢山の糖分やアミノ酸等を生成し、高糖度と高栄養価が得られると考えられている。*親水性高分子フィルム:多量の水分を含む含水ゲル



[特徴]

- ★生育にバラツキがない
- ★管理が簡単 ・場所や環境に左右されない
 - ・フィルムをめくれば根の生育状況が判断できる
- ★高糖度のトマト…根域を制限し、かつフィルムに吸着された養液を根が吸上げようとするので、糖分やアミノ酸が多く作られる。

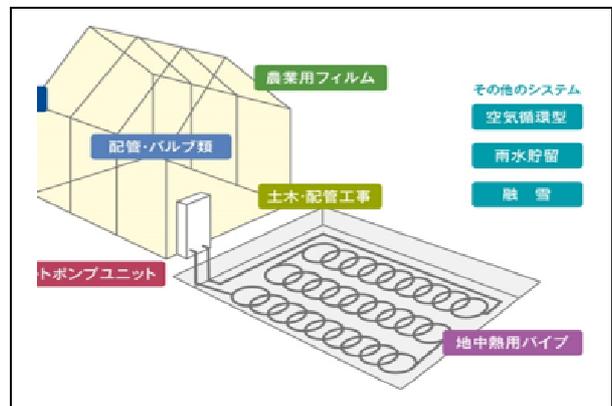
1.3 「CO₂ 局所施用」システム/(株)テヌート

- ★コンピューター制御で時刻、散布パターン、流量、風量、CO₂ 濃度、日射等をより効果的に散布
- ★CO₂により光合成が効率よく促進されるので農産物の成長性が高い
- ★従来法(ハウス全体に供給)に比べて、CO₂を葉周辺にのみ供給するので、低コスト
- ★環境にやさしい(製鉄所、発電所から出る排ガスを回収)

2 持続的なエネルギーの利用

2.1 地中熱利用システム/積水化学

水平/スパイラル状に敷設した新開発高採熱管により地下1～10m程度の浅層部の熱を効率的に取り出すことで、これまでの深層部の熱の回収に比べて採熱部の施工コストを約40%削減できた。同社は、「地中熱活用暖房システムによる園芸作物の周年栽培技術実証試験」で福井県と合意。期間は'16/4～'19/3。



2.2 丸文そらあええの～/ソーラーシェアリング (営農型太陽光発電)

農地に支柱を立てて組んだ架台の上に、間隔を開けて太陽光パネルを設置し、営農を継続しながら太陽光発電を行うもの。パネルが太陽光を遮光するが、ソーラーシェアリングはこの光飽和点以上の太陽光を利用する。光飽和点の強さの光さえあたっていれば、農作物は十分に育つ。農作物によって光飽和点は異なるが、成長の妨げにならないのは遮光率が30%程度とされている。(渡部 敏郎)

1.2 光反射と保湿性・耐久性に優れた農業用フィルム/大日本印刷

- ★野菜・果実の栽培用 可視光の95%を反射する高反射タイプ。本フィルムの使用によって、露地栽培や施設園芸のハウス、植物工場等での光量不足を補い、光合成の効率的な促進を図る。また、マンゴーなどの着色を促進する効果も高く、着色の色むらを防止する。従来の市販品と比較してトマトの収量が約2倍の効果があった。
 - ・光による発熱を遮断し、地温の上昇を抑制する。
 - ・適度な保湿性によって、作物の育成に必要な水分を保持するとともに、散布した肥料の蒸発を防ぐ。
- ★園芸ハウスの通路用 高い光反射性があり、農作物の光合成を促進すると同時に、通水性の高さから通路に菌の温床になる水たまりが発生するのを防ぐ。また、従来の通路用のフィルムに比較して強度が高い。

使用実例			充電価格変更の現在
落花生	露地栽培(万円/年)	6～7	
売電	(万円/年)	200	160
	設備費(万円)	2,000	1,500程度

水系の河原にのみ自生する
キク科の多年草／絶滅危惧種

カワラノギクの野生化に向けて

カワラノギクは今から90年前、1927年に府中市から少し上流の立川市の多摩川で偶然発見された。名前が示す通り野菊の一種である。

過去には他の河川でも生育していたようだが、現在は相模川、鬼怒川、多摩川の三河川でのみ生育しており、純粋な意味での野生種はすでになく、いずれも人の手で保護されるか植栽されたものが生き残っていると思われる。

実は、府中多摩川でカワラノギクが繁茂していたのはそんなに昔のことではない。生まれも育ちも府中だという友人は「自分の若い頃、秋になると多摩川の河原一面に薄紫色の霞がかかったように咲き乱れていたカワラノギクが何故・・・今絶滅危惧種になったのか少し不思議な気がする・・・」と言う。



カワラノギクを観察する佐伯さん



チョウが舞うカワラノギク

ある学者によると、多摩川でカワラノギクが最も繁茂したのは1970年代ではなかったかと推測している。ちなみに、多摩川で最後まで残っていたカワラノギクの群落が四谷にあったが、その場所が浅川との合流地点の少し下流だったため、1999年浅川の増水の影響をまともに受け全滅した。

では何故、短期間で絶滅の危機に瀕したのか。それはカワラノギクが生育する場所の特殊性と河川環境の急激な変化によるものだと考えられる。一般に植物の多くは秋に葉や茎が枯れても土中に養分を蓄えた根が残り、翌春いち早く芽を出しどんどん生長するが、カワラノギクは一回繁殖型なので開花して種子が出来ると茎も根も枯れてしまうので、春暖かくなって種子の発芽から始めなければならない。



東京都が作ったカワラノギクの圃場

これでは他の植物との生長競争に勝つことが出来ない。そのため他の植物が生えていない丸石がゴロゴロした砂や礫石混じりの貧栄養の河原に生きる場を求めてきた。

しかし、多摩川の河川環境の急激な変化により生育できる裸地(植物が生えない土地:植被率50%以下が適地)が急激に減少してきた。

具体例をあげると、従来多摩川の流れは蛇行し、その両側には多くの裸地が形成されていた。しかし、流域の都市化に伴い大幅な河川改修工事が進められて流れは直線化し、小河内ダムが完成して山から出る小石や砂が堰止められ、放水量も管理されるなど、自然に任せていた川の流れを人がコントロールするようになった。その結果、確かに洪水は減少したが、代わりに河原の草地・樹林化が進み、カワラノギクの生育できる裸地はほとんど見られなくなった。



様々な生物をよびよる
穏やかな多摩川へり

明大の倉本教授によると、現在鬼怒川、相模川でそれぞれ5～10余りのグループが、多摩川では上流の羽村市から府中市の間で10余りのグループが保全活動をしている。

府中では、「かんきょう塾2003」をきっかけに活動が始まって13年になる。春タネを蒔き、夏にかけて草取りなどを行い12～1月にタネを採取するが、もう一つ力を入れているのが中洲などに裸地を見つけて「野生化」を試みることである。

今回、東京都が関戸橋の架替工事に伴い少し上流に新しい圃場を作ってくれ、昨秋美しい花が咲き沢山のタネを採ることができた。カワラノギクの保全活動に興味のある方は、是非声をかけてください。(佐伯郁男)

「京都議定書」のその後

後編

府中市環境審議会委員で当会の事務局長も兼ねる小西信生氏に「京都議定書のその後」を2回にわけて執筆していただいた。後編は「府中市の地球温暖化対策 地域推進計画の中間見直し」についてである。(編集部)

府中市の地球温暖化対策 地域推進計画の中間見直し

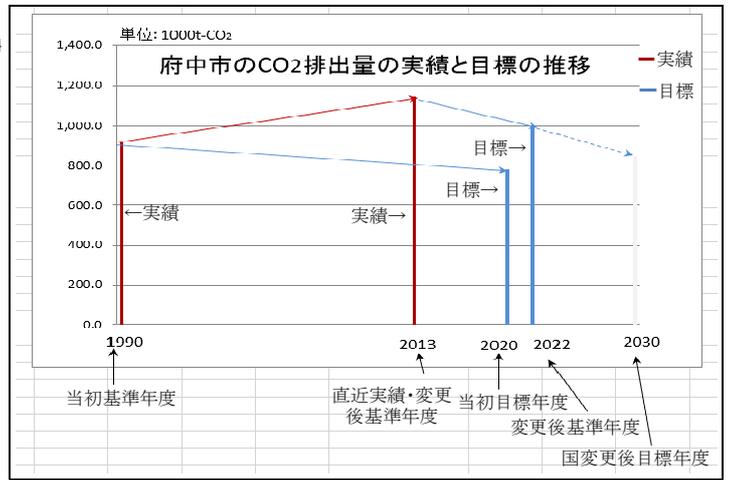
府中市は2011年4月に地球温暖化対策地域推進計画を策定し、2011～2020年度を計画期間とし、15%削減(1990年比)の目標を策定しました。

当初目標を15%削減としたのは、国の目標は25%削減でしたが、地球温暖化ガス(CO₂)削減の国内の対策による真水分(森林吸収源や排出権取引分等を除く)は15%だったことによります。

2016年度は中間見直しの時期ですが、実績は1990年比で24.8%増加、目標比では46.8%の増加となっていました。

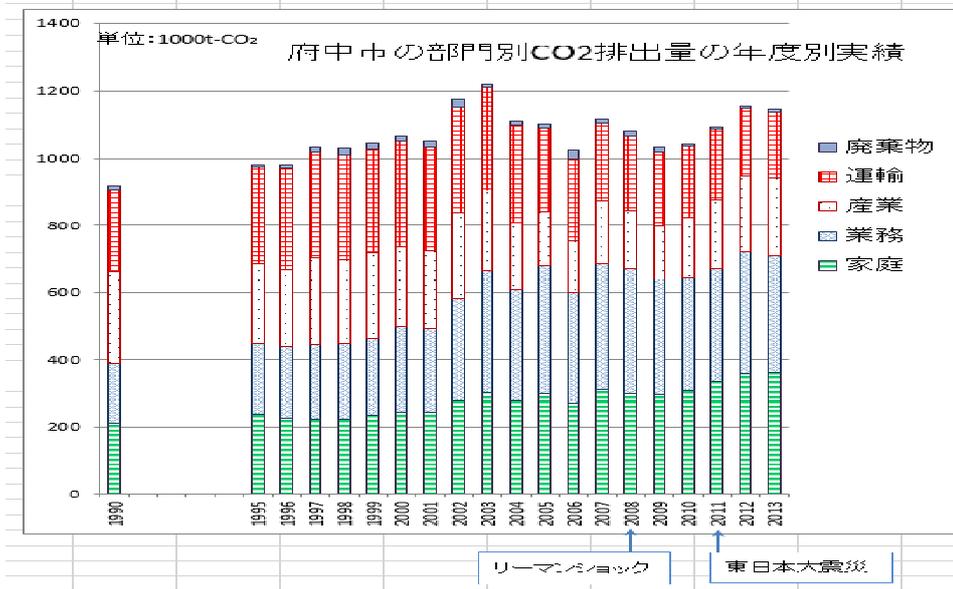
主な原因は

- ①原子力発電所停止に伴う電力のCO₂排出係数の上昇
- ②太陽光発電など再生可能エネルギー発電の予想以下での進行
- ③市固有の現象として人口増、世帯増、事務所面積増の進行、などがあると考えられます。



国や東京都の計画が変更されていることもあり府中市はこのような状況を受け、目標の見直しについて平成28年度(2016)に環境審議会に諮問し、平成25年度(2013)ベースで平成32年度(2022)までにCO₂総量で13%削減する目標に変更するよう、審議会から市へ答申し、平成28年末にはパブリックコメントも実施しました。

これまでとの違いはCO₂総量との計上基準では同じですが、最終年度を平成30年度(2020)から環境基本計画に合わせて平成32年度(2022)に延期した上で、目標値を府中市全体で平成2年度(1990)実績の917.5千トンを779.5千トンとする15%削減目標から、東日本大震災後になる平成25年度(2013)実績の1,145.1千トンを、目標996.2千トンとする13%削減目標に変更しています。



東日本大震災などによる原発の停止で東京電力のCO₂排出係数は停止前と比較して30%以上大きくなっています。

府中市の人口も1990年比で20%以上増加しており、世帯数は世帯当たりの人数減で40%以上増加しています。

各家庭、事業所にとって温暖化ガス削減は省エネとして、また電力やガスの料金やガソリン料金などの節約に直結する話として、逆算すれば10%程度の削減はこの期間に実現できていたとみられますが、①～③までの、エネルギー消費以外の要因の動きが大きく、目標を到底達成できない状況になっています。

しかし、直近の推移は東日本大震災直後(平成23年度)から平成25年度までの2年間で、CO₂は総量で4.8%増加していますから、これまでと同様の施策だけでは目標達成は難しいといえそうです。

また、地球温暖化ガスの増減は、市民一人ひとり、事業者ごとの省エネ努力や技術革新の他に、東京都全体の電力使用に伴うCO₂排出係数の動向、府中市の人口増、世帯増、事務所面積増、製品出荷高増などが係わります。

人口増などは市としては第6次総合計画などで増加が期待されておま

すから、CO₂削減の目標とはトレードオフの関係になっていて、最終年度で達成できない理由にされることも懸念されます。(小西 信生)

※左上資料は「オール東京62市区町村共同事業」の一部を筆者が加工。右上資料は筆者が新たに作成。

訂正して、お詫びします。前号(通巻62号)2ページの右下「田んぼの学校 番外編」の上から3行目。

×ボランティアコーディネーター養成講座

○市民活動・協働推進コーディネーター養成講座